

# 中央アジアの仏教寺院を掘る(3)

—キルギス共和国、アク・ベシム(スイヤブ)遺跡・大雲寺推定地の調査—

岩井 俊平 龍谷大学龍谷ミュージアム教授  
 栢本 哲 元・大阪府文化財保護課技師  
 國下多美樹 龍谷大学文学部教授  
 山内 和也 帝京大学文化財研究所教授・所長  
 望月 秀和 帝京大学文化財研究所 研究員

## Excavating the Buddhist Temples in Central Asia (3): Investigation of the Estimated Dayunsi Temple at Ak Beshim (Suyab), Kyrgyz Republic

IWAI, Shumpei Professor, Ryukoku Museum, Ryukoku University  
 MASUMOTO, Tetsu Former Archaeological Researcher, Cultural Property Preservation Division, Osaka Prefecture  
 KUNISHITA, Tamiki Professor, Faculty of Letters, Ryukoku University  
 YAMAUCHI, Kazuya Professor, Director, Research Institute for Cultural Properties, Teikyo University  
 MOCHIZUKI, Hidekazu Researcher, Research Institute for Cultural Properties, Teikyo University

中央アジアの仏教寺院を掘る(3) —キルギス共和国、アク・ベシム(スイヤブ)遺跡・大雲寺推定地の調査—

### 1. 調査地点と調査の目的

キルギス共和国のチュー川流域には、7世紀頃にシルクロードを通じて仏教が伝えられ、都市遺跡であるアク・ベシムの中にも、3つの仏教寺院址が存在している。このうち、第0仏教寺院址(AKB-0区)と呼ばれる遺構は、唐の武則天の時代に各地に建てられた「大雲寺」のひとつであった可能性が高い。龍谷大学と帝京大学シルクロード学術調査団は、キルギス国立科学アカデミーと共同で2024年にこの大雲寺址推定地の発掘調査を行った(図1)。寺域と思われる範囲を新たにAKB-21区と命名し、北側の調査区(21区a)を龍谷大学が、東側の調査区(21区b)を帝京大学が調査した。図2は、この配置図に1966年に撮影された航空写真を合成したものである。本調査の主要な目的は、現在地上からは完全にその痕跡が失われてしまった大雲寺に関連する遺構・遺物の存在を確認すること、それらの配置と建造技術を確認することである。

### 2. 21区aの調査成果

21区aは、北東から南西方向に設定した幅3m×長さ90mのトレンチで、北西側と南東側に拡張区を設けて調査したところ、以下の遺構を確認した(図3)。暗渠状遺構：いくつかの塼を組み合わせると暗渠状にした遺構。塼のサイズや焼成に違いが認められ、古い塼

も再利用して構築した比較的新しい遺構の可能性がある。

壁体：調査区東端から37mほどの地点で、壁状の遺構を確認した。検出面は地表下30cmほどで、残存幅は、下方が崩れているため明確にはできないが、2.5~3.5mほどである。南側サブトレンチでその構造を確認すると、日干レンガやパフサといった中央アジ

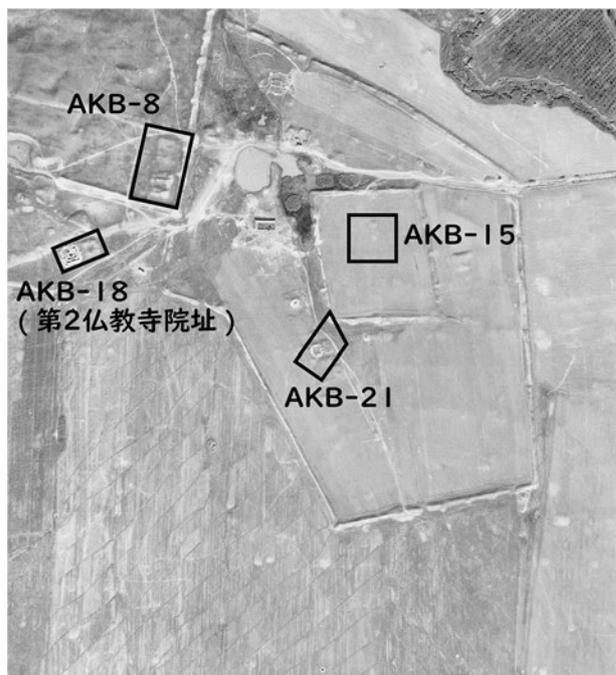


図1 大雲寺推定地(AKB-21区)の位置



図2 調査区配置図

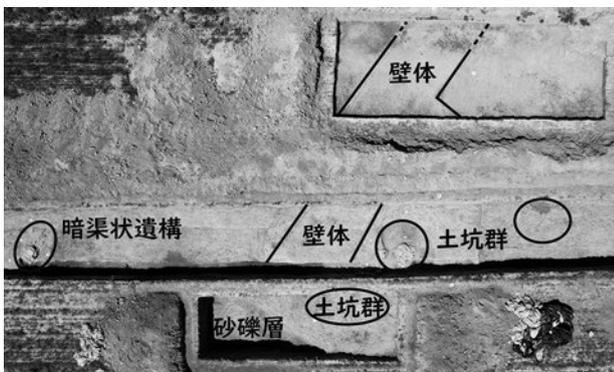


図3 AKB-21 区 a の遺構

ア地域で伝統的に使用される建材の痕跡は認められず、土を積み上げて構築していることが分かる。ただし、これまでに確認されているいわゆる版築技法とも異なっており、今後の精査が必要である。北西拡張区においてもこの壁体が続いていることが確認され、さらにこれと直角に交わる、おそらく間仕切り壁と思われる遺構を検出した(図4)。なお、壁体最下部で採取した炭化材は7~8世紀の年代を示しており、唐時代の遺構と考えて矛盾はない。

### 3. 21 区 b の調査成果

21 区 b は、南北方向に設定した幅 3 m × 長さ 130 m

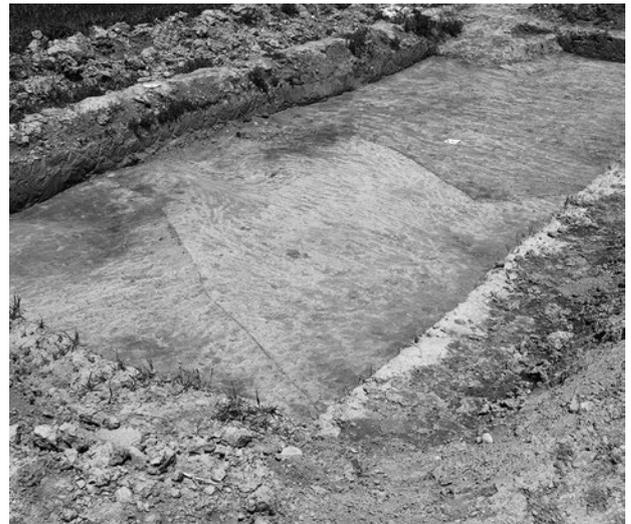


図4 北拡張区で検出された壁体

の Tr. 1 と、その東側に東西方向に設定した幅 3 m × 15 m の Tr. 2 から成る(図2)。地表下 40~60 cm ほどで6つの遺構(遺構 a~f)を検出したので、以下で主要なものについて報告する(図5)。

遺構 a: Tr. 1 の南端に位置する。夾雑物のない土で構成されており、位置的には1966年の航空写真に写っている横長の丘の東辺に当たることから、建物基壇と推定した。遺構の外側(東側)には壁土の可能性のある白色土塊(図6)や大量の瓦が混在する土層が堆積しており、遺構とは明確に異なる。

遺構 b: Tr. 1 の南端から約 25 m で検出した。遺構 a と同じ構造で、トレンチ西壁部分では版築構造も確認されている。1966年の航空写真に写る、ベルンシュタムが発掘した第0 仏教寺院址の東側遺構の南東隅に位置することから、遺構 a とは別の建物の基壇と考えられる。遺構の外側(北東側)に白色の土塊や瓦が混在している点も遺構 a と共通する。

遺構 f: Tr. 2 の西端から中央付近にかけて幅 5.2 m のやや硬化した遺構を検出した。1966年の航空写真でも、この地点には若干高まった地形が帯状に続いているように見えることや、東側にある水路に起因するアシの植生がこの遺構を境に留まっていることから、寺院を囲む東壁の可能性が考えられる。

## 4. 出土遺物

今回の調査では、土器・瓦・埴・青銅製品・動物骨を中心に多くの遺物が出土している。以下では、特徴的なものをいくつか紹介する。

軒丸瓦(図7): 合計6点の軒丸瓦が出土しているが、

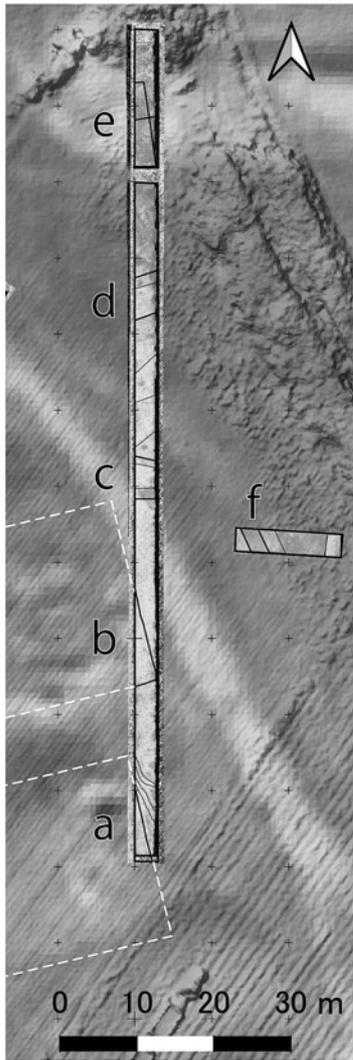


図5 AKB-21区bの遺構

いずれも耕作土中に包含されていたものである。これまでに AKB-15 区(本誌の榑原報告を参照)などで出土している唐代のものと共通している。

平瓦・丸瓦：調査区全体から大量に出土している。今回、21 区 b からほぼ完形の丸瓦も出土している(図8)。これらは基本的に唐代の瓦と同じ技法で製作され、灰色に堅く焼成されており、凹面には布目が残っている。赤色瓦：上記の瓦と異なり、橙から赤色に焼成され凹面に布目のない平瓦・丸瓦が一定数出土した。現状では、後世になって唐代の瓦が破損した際に、補修のために1枚ずつ製作した瓦と捉えておきたい。

青銅製獅子像(図9)：21 区 a から、前足を上げて顔を正面に向けている獅子像と思われる青銅製の小品(高2.9 cm)が出土した。こうした獅子は、南北朝～唐代の金銅仏あるいは舍利容器等に表される例が知られており、近辺にそのような仏教彫像が存在していた可能性を示唆する。



図6 遺構 a の外側で検出された白色土塊



図7 AKB-21区出土の軒丸瓦(縮尺不同)



図8 完形の丸瓦(長37.3 cm)



図9 青銅製の獅子像(高 2.9 cm)

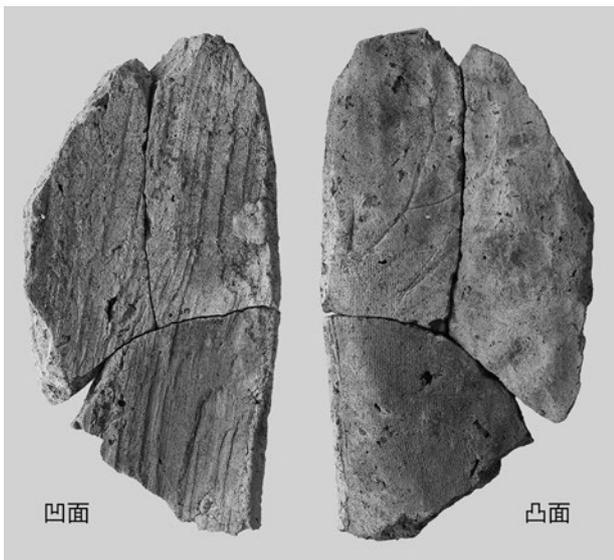


図10 凸面に布目のある土製品(長さ約 25 cm)

そのほか、凸面に刻線と布目のある平瓦状土製品(図10)、鴉尾状土製品、石像の破片らしき石製品、銅貨などが出土している。

## 5. まとめ

以上のとおり、AKB-21区 の調査では、壁体および基壇と思われる遺構を複数箇所で見出すことがで

きた。これらの遺構の方位は、いずれも座標北から14～17度ほど西に振れており、1966年の航空写真で認められる第0仏教寺院址の遺構やその周囲の壁と思われる痕跡の方向と完全に一致している。したがって、これらの遺構は基本的には一体のものと捉えられ、さらに21区aにおいて採取した炭化材が示す年代を考慮に入れば、これらを大雲寺の遺構と想定することは十分に可能である。遺構周辺から大量に出土する唐代の瓦や、中国的な様式を示す青銅製の獅子像も、この想定を補強するものと考えられる。

次年度以降の調査では、今回出土した遺構を平面的に検出するとともに、その性格や範囲を明確にすることを旨とする予定である。こうした調査を継続することで、寺院の伽藍配置を明らかにし、ほとんど知られていない大雲寺の実態に迫ることも可能となるだろう。

※本調査研究は、JSPS 科研費 23K25399 基盤研究(B)「中央アジア仏教遺跡の多様性の形成過程に関する考古学的研究」(代表：岩井俊平)および21H04984 基盤研究(S)「シルクロードの国際交易都市スイヤブの成立と変遷—農耕都市空間と遊牧民世界の共存—」(代表：山内和也)による成果の一部である。

## 参考文献

- ・加藤九祚 1997『中央アジア北部の仏教遺跡の研究』シルクロード学研究4、シルクロード学研究センター
- ・川崎健三・山内和也 2020「ベルンシュタムによるアク・ベシム遺跡シャフリスタン2の発掘調査」『帝京大学文化財研究所研究報告』第19集、215-245頁。
- ・榎原功一 2020「アク・ベシム遺跡の土器と瓦」『2019年度シルクロード学研究会 資料集』21-32頁。
- ・望月秀和・山内和也・バキット アマンバエヴァ「空中写真によるアク・ベシム遺跡(スイヤブ)の解析」『帝京大学文化財研究所研究報告』第19集、61-126頁。